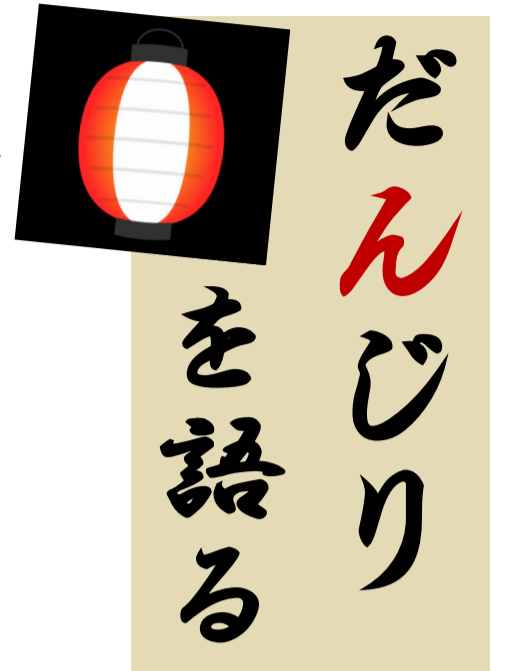


開館時間
月曜日～日曜日 9時30分～20時
休館日(本館・分館) 毎月第2・4火曜日
図書館システム入替のため、休館します。
2022.9.21(水)～10.3(月)

地車(だんじり)は岸和田祭が有名ですが、天神祭をはじめとした大坂の夏祭から生まれました。組み物で支えられた唐破風(からはふ)の屋根を備える地車を見て、神社の社殿を連想する方も少なくありませんが、江戸時代に淀川を往来した豪華絢爛の川御座船(かわござぶね)が地車の原型になっています。「だんじり」という言葉は、唐破風二棟造で四輪の形態を採ることが多い曳車のことを示す場合が多いですが、地域によっては太鼓台や船型曳車をだんじりと呼び、時代を遡れば稚児の舞を意味していたそうです。

高石市にもゆかりのある地車についてや、だんじり祭りの歴史を本を通じて覗いてみませんか？

引用：『日本だんじり文化論』 森田玲/著 創元社



高石地車連合会(たかいしじぐるまれんごうかい)の現会長の紙谷さんにお話を聞いてきました！

だんじり(地車)との出会い

地車との出会いは小学校の時。父親がだんじり好きでよく一緒に岸和田のだんじり祭りを見にいっており、その後30代になり高石の地車小屋の近くに引っ越したことがきっかけで地車と関わるようになったそうです。

だんじり祭りを開催している高石地車(じぐるま)連合会は、各町によって違いはありますが65歳以上が所属する保存会・50歳以上の親会・27～40代の若頭会・それ以下の青年団(少年団)で構成されているとのこと。幅広い年齢層の役員方を取りまとめる会長という役目は苦勞する場面も多くあるのだらうと、お話を聞いていて感じました。



実際に今までで一番苦勞したことは会長を任せられたことだそうです。

◀ 昨年は副会長を務められていた紙谷さん。

コロナ禍のだんじり

約2年間コロナの影響で開催が中止されていただんじり祭り。会合などの活動が一切できずはがゆい気持ちだったそうです。今年のだんじり祭りは開催予定(8/15時点)とのことで、「だんじりが好きな方やそうでない方もいると思いますが、今年こそ高石の活性化の為に祭りを行いましょう！そのためにも市民の皆さまのご協力をお願いします」とのお声をいただきました。だんじり祭りの魅力について聞いてみると、交差点を曲がる時の「やりまわし」、皆が一体となって力強く走る姿をぜひ見て頂きたい！上手に曲がるために雨や晴れなど天候により駒の調整を各町で行ったりしているんですよ！と、教えていただきました。地車へのこだわりが垣間見られた瞬間でした！

高石市の活性化につなげたい！

お好きな本は？と聞いてみたところ「だんじり彫刻の魅力」とのこと。ぜひ地車ごとに違うすばらしい彫刻にも注目したいですね。だんじりへの愛が溢れる紙谷さんにとって地車は、15町が一体となって祭りをを行うことで高石市が元気になり活性化にもつながる、市民の1人としてとてもかけがえのない存在だそうです。高石市の歴史深い行事の一つであるだんじり祭り。今まであまりだんじりに興味なかった方も、連合会の皆さんの熱い思いが伝わっただんじりを楽しんでみませんか？図書館にはだんじり関連本もありますのでぜひあわせて手にとってみてください！

だんじりを読み解く

- 『ザ・だんじり1984躍動！泉州路パートII』 だん吉友の会 386/ザ
- 『天神祭の神賑』 森田玲/著 だんじり彫刻研究会/編 386.1/モ
- 『日本だんじり文化論』 森田玲/著 創元社 386.1/モ



『図説だんじり彫刻の魅力』

- だんじり彫刻研究会/編著 だんじり彫刻研究会 713/ズ
- 『儀 岸和田旧市だんじり祭』 宮田昌彦/著 遊タイム出版 748/ミ



その他、郷土資料コーナーにも館内閲覧ができるだんじり関連本がございます！ぜひご覧ください。

貸出人気ランキング 令和4年度 VS 平成31年(3年前と比較)

4月～7月編

令和4年4月～7月(現在)

- | | |
|-----------------------------|---------------------------------|
| ①透明な螺旋 東野圭吾/著 文藝春秋 | ⑥逆ソクラテス 伊坂幸太郎/著 集英社 |
| ②白鳥とコウモリ 東野圭吾/著 幻冬舎 | ⑦星を掲ぐ 町田そのこ/著 中央公論新社 |
| ③52ヘルツのクジラたち 町田そのこ/著 中央公論新社 | ⑧ブラック・ショーマンと名もなき町の殺人 東野圭吾/著 光文社 |
| ④クスノキの番人 東野圭吾/著 実業之日本社 | ⑨もう別れてもいいですか 垣谷美雨/著 中央公論新社 |
| ⑤小説8050 林真理子/著 新潮社 | ⑩探花 今野敏/著 新潮社 |

平成31年4月～7月

- | | |
|----------------------|------------------------|
| ①コンビニ人間 村田沙耶香/著 文藝春秋 | ⑦マスカレード・ホテル 東野圭吾/著 集英社 |
| ②蜜蜂と遠雷 恩田陸/著 幻冬舎 | ⑧虚ろな十字架 東野圭吾/著 光文社 |
| ③火花 又吉直樹/著 文藝春秋 | ⑨ナミヤ雑貨店の奇蹟 東野圭吾/著 角川書店 |
| ④機捜235 今野敏/著 光文社 | ⑩下町ロケット 池井戸潤/著 小学館 |
| ⑤素敵な日本人 東野圭吾/著 光文社 | |
| ⑥樓月 今野敏/著 新潮社 | |

大きな字で読みやすい！

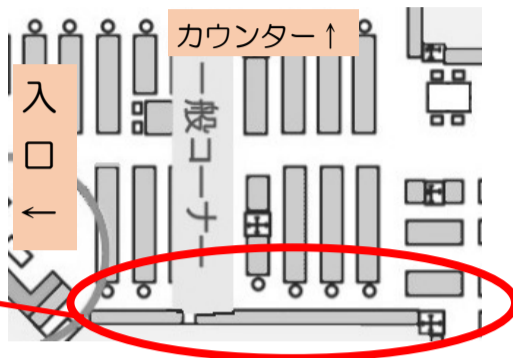


大活字本をご存じですか？

大活字本とは視力が弱い方や小さな文字が読みづらくなつた方も読みやすいように、通常よりも大きな文字や判型を用いた本のことです。読み物はもちろん実用書など多数取り揃えていますのでぜひ手に取ってみてください。8月末まで館内で特別展示もしています！



大活字本は、生活コーナーの隣小説の壁側にあります。



イベントレポート



「としょかん寄席」6月4日(土)

久しぶりに「としょかん寄席」が6月4日(土)に開催されました！開催前から皆さんの反応は好評で、「楽しみにしています」とのお声もいただいていた。まちに待った当日！みなさん、マスクをしていて残念ながら笑っている口元は見えませんが、噺家さんたちの巧みな話術に引き込まれ、うんうんとうなずきながら聞いている人、身を乗り出して聞いている人など、それぞれが落語の世界を楽しんでいるようでした。お噺の中の笑いどころでは会場が笑いに包まれ、とても和やかな時間でした。



人など、それぞれが落語の世界を楽しんでいるようでした。お噺の中の笑いどころでは会場が笑いに包まれ、とても和やかな時間でした。

図書館スタッフおすすめのこの1冊！



大きな字で書かれています！

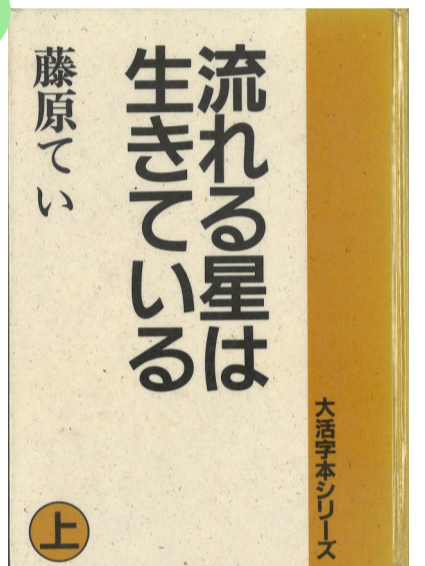
『流れる星は生きている』 藤原てい/著 埼玉福祉会

著者藤原ていは、夫は新田次郎、息子は数学者でエッセイストの藤原正彦である。所謂作家一家であるが、元々はていが本書を書きベストセラーとなったことが、作家新田次郎を生んだきっかけとなっている。

本書は、当時新京の観象台に赴任する夫と共に満州に渡った著者が、昭和20年の終戦後辛うじて引き揚げ帰国した壮絶な1年余りの手記。著者が、自分はずいぶん死ぬだろうと感じ帰国後すぐ、子ども達に宛てた遺書として書かれたものだけあり、包み隠すことなく、人間の醜さ、残酷さ、利己主義、そして温情などが

記されている。

夫と引き裂かれ、幼い子ども3人を連れて、食べるものも着るものもろくになく、山を登り川を渡るシーンは壮絶である。あとがきを読んでようやく安心することができ、家族それぞれの生命力に感謝する内容となっている。戦争がもたらす悲劇がここにもあり、二度と起こしてはいけない、ということを感じさせられる1冊。戦後77年の今年、今の若年層にもよんでもらいたい著書である。



作家紹介 東野圭吾



数多くのベストセラー小説を生みだしている、大阪市生野区出身の人気作家、東野圭吾。驚くことに幼い頃は本好きの少年ではなく、国語の成績もひどかったようで、親や先生から「本を読め。読め。」とずっと言われていました。運命を変えるきっかけになったのが高校時代。『アルキメデスは手を汚さない 小峰元/著』を読んだことで、ミステリーに目覚めます。彼の「気に入ったものがあれば、まずは真似してみる。」という性格から、小説を書いてみたら読むよりも書く方が好きだということに気づき、小説を書くようになりました。登場人物の行動、心の動きも含めて自分だったらどうするかを徹底的に考えられているからこそ、作品の情景描写や心情がとてもしリアルでイメージしやすく、知的好奇心がくすぐられます。なんととっても、先の読めない展開の連続や想像を超える結末に「面白い！伏線探しにまた読みたい！」と作品にはまる読者が多くおられます。ミステリー、サスペンス、ユーモア小説など人間の内面を丁寧に書かれているので、映画化・ドラマ化された作品が多く幅広い世代から支持されています。今までミステリー小説を読んだことがない方にもおすすめです。



頭を活性化！脳トレ・ボードゲーム関連本はコチラ



- 大人の間違い探し脳ドリル 川島隆太/監修 文響社 498.3/オ
- シニアのクイズ&間違いさがしで楽しく脳トレ 脳トレーニング研究会/編 黎明書房 498.3/シ
- 新感覚！脳トレBOOK違和感をさがせ！ プティック社 498.3/シ
- 家事で脳トレ65 加藤俊徳/著 主婦の友社 498.39/カ
- 日本懐かしボードゲーム大全 辰巳出版 798/ニ
- ボードゲームカタログ2022 すぐろくや/編 スモール出版 798/ボ
- 川島隆太教授の脳トレ川柳 川島隆太/編 毎日新聞出版 911.467/カ【分館】

～健康コラム③～

“日々の暮らしで脳トレ！”

いつまでも身体も脳も若々しくいたいですよね。身体は筋トレをすれば、若く保たれるといわれていますが、脳はどうすればいいのだろう…。ドリルやアプリで脳のトレーニングをしてみても続けるのが面倒、三日坊主だからとあきらめていませんか？実は、特別なことをしなくても日々の暮らしの中で脳を鍛えることができるんです！例えば“片付けや掃除のときにタイマーをセットして時間内に終わらせる”“季節の行事を忘れずに行う”など、ちょっと工夫するだけで脳トレにつながります。日ごろの生活を意識するだけで脳トレができるなんて、手軽に始められそうですね！図書館には気軽に始められる脳トレの本もありますよ。今日から早速はじめてみませんか？

参考文献：「家事で脳トレ65」 加藤俊徳/著 主婦の友社